

2023年（令和五年） 3月10日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

2/23～3/1のNYMEX・WTI先物市場は75.39～77.69ドルの範囲で推移した。

3月2日は、前日の中国の好調な2月製造業景況指数発表を背景に、中国経済の回復期待の高まりで、3日続伸した。ただ、米国の利上げの長期化懸念が上値を抑えた。4月限終値は前日比0.47ドル高の78.16ドル。

週末3日は、引き続き、中国の景気回復期待、また、米国株式市場の活況で、4日続伸した。ただ、アラブ首長国連邦(UAE)がOPEC脱退を検討中であるとの報道で、一時値を下げる局面もあった。4月限終値は前日比1.52ドル高の79.68ドル。

週明け6日は、ドル安・ユーロ高の進行による原油先物の割安感、サウジの4月積みアジア向け原油の調整金の引き上げ発表で、5営業日続伸、終値は節目の80ドルを超えた。ただ、中国全国人民代表大会会議における2023年経済成長目標の下方修正が上値を抑えた。4月限終値は前日比0.78ドル高の80.46ドル。

7日は、米国連邦金融制度理事会(FRB)のパウエル議長が議会証言で、積極的利上げの継続・強化を発言、先行き景気後退懸念の高まりやドル高進行で、6営業日ぶりに反落した。また、中国の1～2月貿易統計で輸出入とも10%近い減少の発表で、景気回復には時間を要するとの見方も値下がり要因となった。4月限終値は前日比2.88ドル安の77.58ドル。

8日は、前日のパウエルFRB議長の発言、この日の堅調な米国雇用統計の発表で、利上げ継続に伴う景気後退懸念が拡大、続落した。ただ、米国の前週末の原油在庫が予想外

の11週ぶりの取り崩し発表で、石油需要の底堅さが認識され、下値は固かった。4月限終値は前営業日比0.92ドル安の76.66ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(4月渡し)は、2月24日～3月1日の間、81.10～81.90ドルの範囲で推移した。3月2日82.50ドル、3日83.10ドル、6日83.80ドル、7日84.80ドル、8日81.80ドルで推移した。

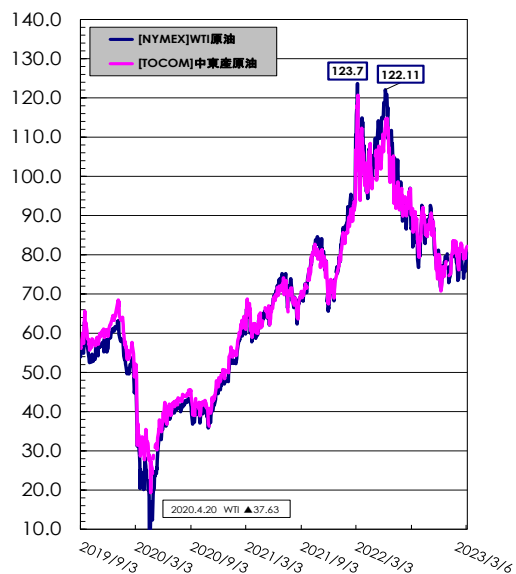
為替は、2月24日～3月1日の間、134.19～136.41円の範囲で推移した。3月2日136.15円、3日136.70円、6日135.92円、7日136.13円、8日137.35円で推移した。

財務省が3月7日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、2月中旬の原油輸入平均CIF価格は、71,789円で、前旬比1,077円高、ドル建て87.80ドルで前旬比0.84ドル高、為替レートは1ドル/129.98円だった。

そのような中で、3月6日時点の価格は、ガソリンが前週比横ばい、軽油は同0.1円の値上がり、灯油は同2円の値上がり(18リットルベース)であった。ガソリン3週連続の横ばい、軽油は2週ぶりの値上がり、灯油は8週ぶりの値上がりだった。ガソリンの全国平均価格は167.4円と、引き続き、燃料油価格激変緩和対策が発動され、次週の補助金の支給額は18.1円となった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	2/26 ~ 3/4	2,927 ▼ -169	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	79.0 ▼ -4.5	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	3/4	10,531 ▼ -58	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	3/6	82.19 ▲ 2.72	▼ -36.0
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	3/6	80.46 ▲ 4.78	▼ -38.9
	原油CIF単価 (\$/bbl)	2月中旬	87.80 ▲ 0.84	▲ 1.05
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	71,789 ▲ 1,077	▲ 9,129
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	129.98 ▼ -0.70	▼ -15.15
	外国為替TTSレート (¥/\$)	3/6	136.92 ▲ 0.35	▼ -20.90

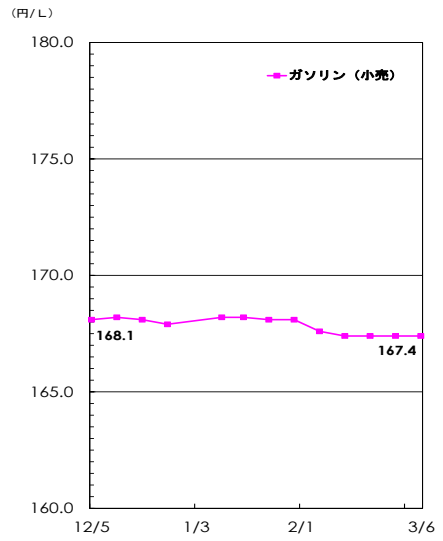
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/26 ~ 3/4	912 ▼ -57	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	836 ▼ -6	▲ -	
	輸出	"	120 ▼ -21	▼ -	
	在庫	3/4	1,647 ▼ -45	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/28 ~ 3/6	72.6 ▲ 0.8	▼ -9.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/28 ~ 3/6	73.0 ➡ 0.0	▼ -10.6
		(TOCOM/中部)	3/6	73.6 ➡ 0.0	▼ -11.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/6	167.4 ➡ 0.0	▼ -7.2	

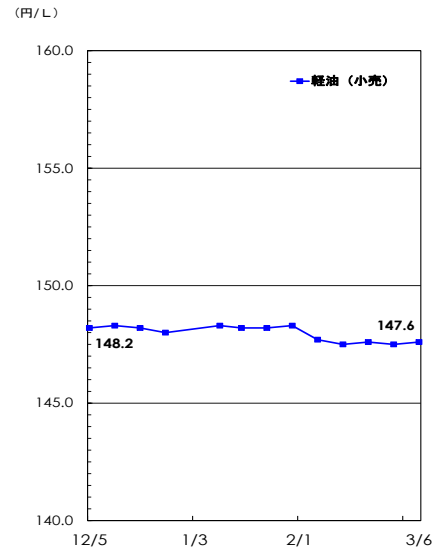
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

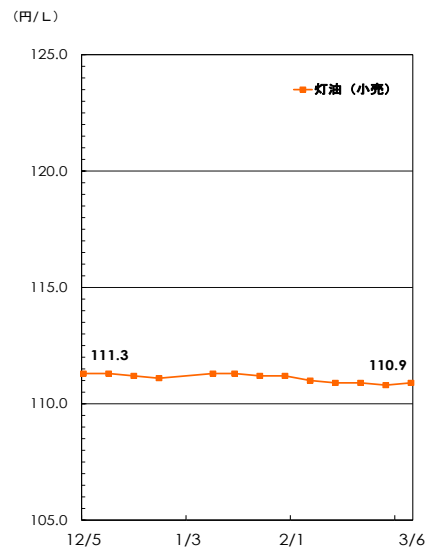
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/26 ~ 3/4	769 ▼ -47	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	651 ▼ -12	▼ -	
	輸出	"	173 ▼ -41	▲ -	
	在庫	3/4	1,185 ▼ -54	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/28 ~ 3/6	74.6 ➡ 0.0	▼ -9.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/28 ~ 3/6	76.4 ▲ 0.3	▼ -12.8
		(TOCOM/中部)	3/6	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/6	147.6 ▲ 0.1	▼ -6.6	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	2/26 ~ 3/4	291 ▼ -28	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	402 ▼ -9	▼ -	
	輸出	"	0 ▼ -31	▲ -	
	在庫	3/4	1,227 ▼ -112	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	2/28 ~ 3/6	75.3 ▼ -0.3	▼ -7.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	2/28 ~ 3/6	75.0 ▼ -0.3	▼ -8.3
		(TOCOM/中部)	3/6	76.3 ➡ 0.0	▼ -5.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/6	110.9 ▲ 0.1	▼ -3.5	



■ 関連情報

1 海外/原油

当週(3月2日~8日)のWTI石油先物市場は、2日の78.16ドルで始まり、中国経済の回復期待を中心に、週明け6日まで続伸、節目の80.46ドルを付けたが、7日のパウエル米FRB議長の積極的利上げ継続・長期化発言などで続落し、3月8日の76.66ドルで終わった。

3月8日発表の3日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国内週間在庫統計によると、原油在庫は前週比170万バレル減と、市場予想に反した11週ぶりの取り崩しとなり、米国の石油需要の底堅さを示した。

EIAによると、3月6日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比4.7セント値上がりの1ガロン3.389ドル(122.4円/ℓ)と

5週ぶりの値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比1.2セント値下りの1ガロン4.282ドル(154.7円/ℓ)と5週連続の値下がりであった。

ベーカーヒューズ社によると、3月3日時点で、米国内稼働石油掘削装置は、前週比8基減の592基と3週連続で減少した。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2023年2月26日~3月4日に休止したトッパー能力は10.5万バレル/日で、前週に対して0.0万バレル/日減少した(全処理能力は333.1万バレル/日)。

原油処理量は292.7万klと、前週に比べ16.9万kl減少。前年に対しては12.3万klの減少。トッパー稼働率は79.0%と前週に対して4.5ポイントの減少、前年に対しては0.3ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてA重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/5.9%減、ジェット/10.5%減、灯油/8.9%減、軽油/5.8%減、A重油/5.1%増、C重油/21.7%減。今週のC重油の輸入は8.9万kl(前週比8.9万kl増)。軽油の輸出は17.3万kl(前週比4.1万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べて、ジェット、A重油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではガソリン、A重油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は83.6万kl(対前週0.7%減)と2週振りに減少した。ジェット4.4万kl(前週は-2.8万klのため、7.2万kl増)、灯油40.2万kl

(対前週2.3%減)、軽油65.1万kl(対前週1.8%減)、A重油26.0万kl(対前週10.9%増)、C重油18.5万kl(対前週0.9%増)。

(単位:千kl)

	今週 (2/26 ~ 3/4)	前週 (2/19 ~ 2/25)	前週比	
ガソリン	836	842	▼ -6	(-1%)
ジェット燃料	44	-28	▲ 72	(-257%)
灯油	402	411	▼ -9	(-2%)
軽油	651	663	▼ -12	(-2%)
A重油	260	234	▲ 26	(11%)
C重油	185	183	▲ 2	(1%)
合計	2,378	2,305	▲ 73	(3%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

3月4日時点の在庫はC重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては軽油、A重油が減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンは164.7万kl、前週差4.5万kl減。前年に対しては1.1万kl多い。

灯油は122.7万kl、前週差11.2万kl減。前年に対しては3.8万kl多い。

軽油は118.5万kl、前週差5.4万kl減。前年に対しては17.0万kl少ない。

A重油は65.9万kl、前週差2.2万kl減。前年に対しては0.2万kl少ない。

C重油は178.7万kl、前週差12.4万kl増。前年に対しては19.5万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (3/4)	前週 (2/25)	前週比	
ガソリン	1,647	1,692	▼ -45	(-3%)
ジェット燃料	745	771	▼ -26	(-3%)
灯油	1,227	1,339	▼ -112	(-8%)
軽油	1,185	1,239	▼ -54	(-4%)
A重油	659	681	▼ -22	(-3%)
C重油	1,787	1,663	▲ 124	(7%)
合計	7,250	7,385	▼ -135	(-1.8%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

2月28日～3月6日のドル建て中東原油価格は値上がりし、為替レートの円安で、元売会社の円建て原油コストは、2.0円値上がりしたものと見られる。

げとなった模様。

上記コストアップに先週の補助金額17.0円を加えたコスト上昇額19.0円に、今週も補助金18.1円が支給されることから、3/9～3/15の元売会社の実質的な卸価格は0.9円の値上

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

2月28日～3月6日の製品スポット市況は、2月21日～27日平均と比べ、ガソリンの先物取引・灯油の海上取引・軽油の陸上取引の横ばい、灯油の陸上取引と先物取引の値下がりを除き、他の取引・油種で値上がりした。

直近週(2/28～3/6)の陸上スポット価格平均値は、前週(2/21～2/27)比で、ガソリンは0.8円の値上がり、灯油は0.3円の値下がり、軽油は横ばいだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(2/28～3/6)に、前週(2/21～2/27)比で、ガソリンは0.7円の値上がり、灯油は横ばい、軽油は0.1円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油は0.3円の値下がり、軽油は0.3円の値上がりだった。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (2/28～3/6)	前週 (2/21～2/27)	前週比
	レギュラー	72.6	71.8
灯油	75.3	75.6	▼ -0.3
軽油	74.6	74.6	→ 0.0

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値 [平均]]	今週 (2/28～3/6)	前週 (2/21～2/27)	前週比
	レギュラー	73.0	73.0
灯油	75.0	75.3	▼ -0.3
軽油	76.4	76.1	▲ 0.3

※上記価格は税抜き価格

参考値 (2/28～3/6実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.8	→ 0.0	▲ 0.4
灯油	▼ -0.3	▼ -0.3	▼ -0.3
軽油	→ 0.0	▲ 0.3	▲ 0.1
A重油	▼ -0.1		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

3月6日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比横ばいの167.4円、軽油は0.1円値上がりの147.6円、灯油は18%ペースで2円高の1,997円(1%ペースでは0.1円高の110.9円)。ガソリンは3週連続の横ばい、軽油は2週ぶりの値上がり、灯油は8週ぶりの値上がりだった。

次回調査時(3/13)のガソリンの小売価格は、横ばいなし小幅な値動きが予想される。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは15都府県、横ばいは9県、値下がり23道府県だった。全国最安値は徳島県の160.2円、その次は宮城県の160.4円であった。他方、最高値は長崎県の180.7円だった。最も値上がりしたのは和歌山県(前週比1.2円高)、横ばいは鳥取県等9県、最も値下がりは愛知県(同1.0円安)だった。

(単位: 円/%)

(資工公表) [週動向]	今週 (3/6)	前週 (2/27)	前週比	直近高値
レギュラー	167.4	167.4	→ 0.0	08/8/4 185.1
灯油	110.9	110.8	▲ 0.1	08/8/11 132.1
軽油	147.6	147.5	▲ 0.1	08/8/4 167.4

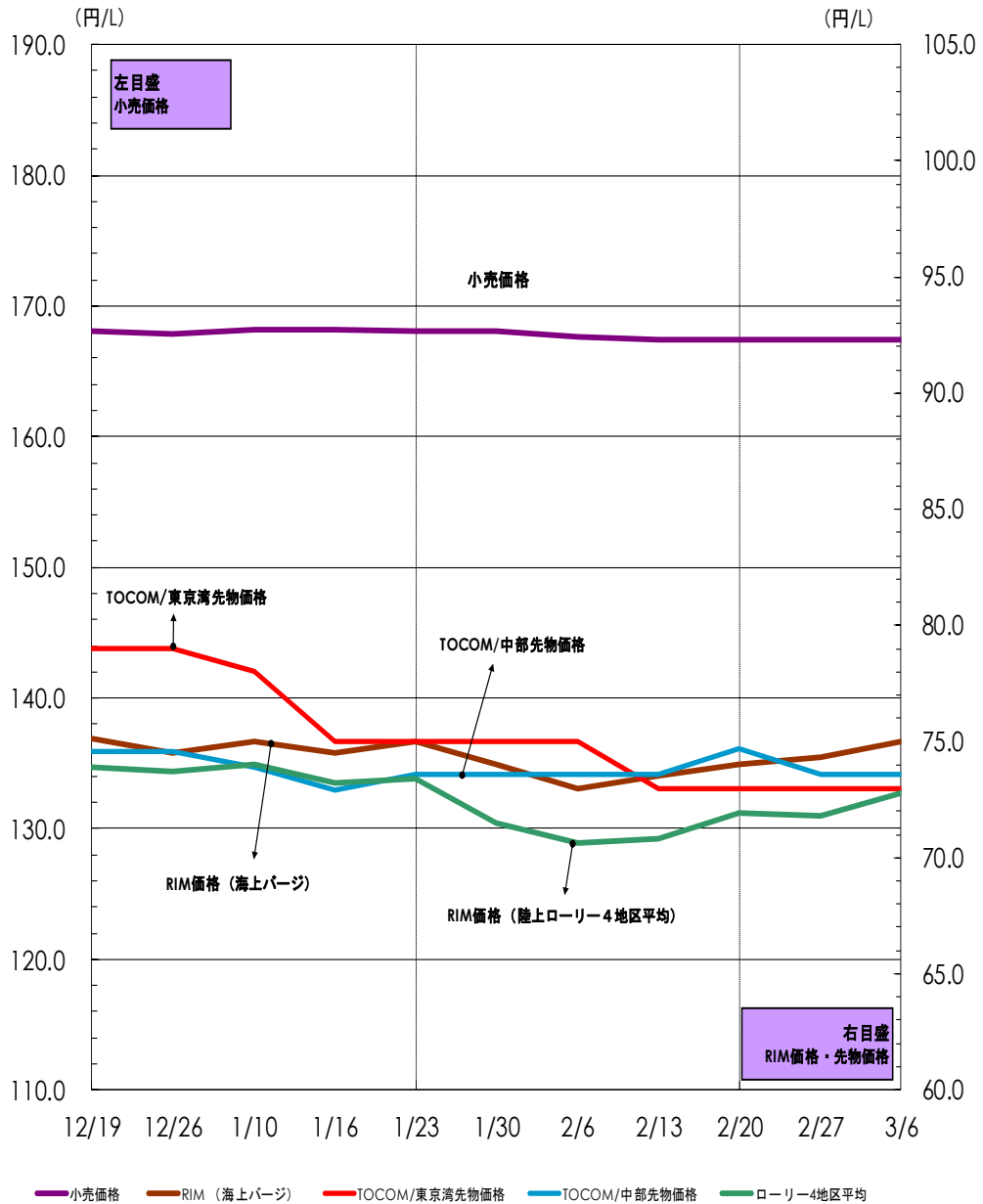
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2022/12/19 ~ 2023/3/6)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回 (2022第48号) の公表は、3/17 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層 (特に給油所経営に携わる方々) から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所 (The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限 (翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」 (旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社 (RIM) 「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用 (いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格 (平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格 (平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁-HPIに掲載)。